



## 研修議事録（〇〇〇障がい福祉サービス事業所）※事例

研修テーマ	虐待防止及び身体拘束適正化に関する研修				
開催日時	2022年5月9日（火曜日）		15時30分～17時00分		
開催場所	〇〇〇障がい福祉サービス事業所 相談室				
研修参加者	本町、森野、金森、鶴川、玉川、三輪、山崎、小山、相原／9名				
研修不参加者とその対応	<p>木曾、南、東、鶴間／4名</p> <p>※参加できなかった職員については、事前に配布した資料を確認してもらい「虐待防止職員セルフチェックリスト」を各自記入の上、事務所に提出した。また、当事業所のヘルパー通信でも研修の内容を報告し、周知を図った。</p>				
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に配布していた「障害者虐待をなくそう」のパンフレットや「身体拘束適正化のための指針」（※別紙参照）を使い、障害者虐待の定義、虐待者、被虐待者の自覚は問わないこと、障害者虐待の具体例、虐待を発見したらすぐに通報すること、身体拘束適正化のための7つの指針等を学んだ。</li> <li>・事務所の掲示されている相談通報届出先を確認したり、通報届出の手順の確認を行った。</li> <li>・従業員に対して「虐待防止チェックリスト」を実施した。</li> </ul>				
意見・感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉で伝えることが難しい利用者さんが多いので、表情等見ながら気を付けていきたい。</li> <li>・衣服の着脱などこれからも気をつけていきたい。</li> <li>・名前の呼び方など利用者さんやご家族と相談しながらきをつけている。</li> <li>・小さいころから関わっているので、保護者はちゃんづけを希望することが多く、呼び方が難しいところである</li> <li>・入浴の時など全身チェックは日頃から行っている。</li> <li>・届出通報の手順がわかりよかった。</li> <li>・身体拘束は行わないことがベストだが、やむを得ず、①切迫性、②非代替性、③一時性が生じた場合は、行うことができることを学んだ。</li> <li>・身体拘束はあくまで、緊急事態の手段であることを改めて感じた。</li> </ul>				
チェック欄	管理者		サービス管理 (提供) 責任者		記録者